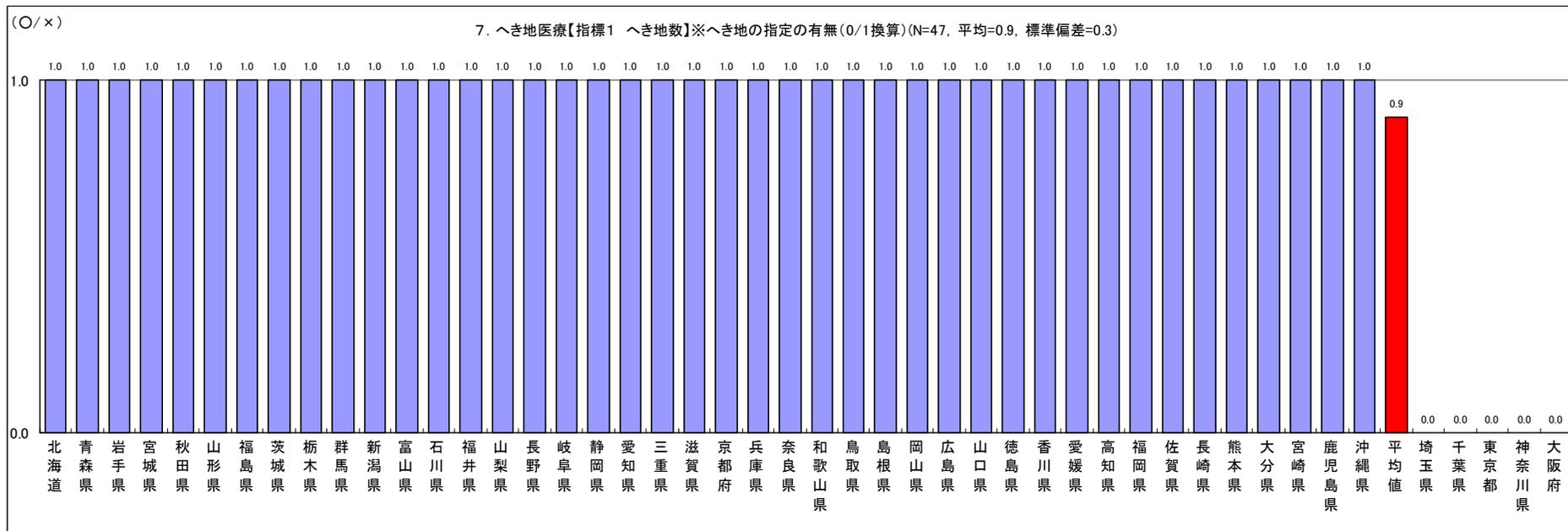


(1) 「指標」の概要

指標番号	指標名	指標の概要
1	へき地数	<p>「どのくらい多いか」を見るための指標です。</p> <p>へき地とは、原則として近隣に医療機関がない地域（無医地区等）を指します。無医地区であっても都道府県は巡回診療等の手段により必要な医療が確保されるよう努めています。そのため、必ずしもこの数値が大きいことが問題というわけではありません。</p> <p>へき地に指定された地域がない都道府県もあります。</p>
2	応急手当受講率【救急医療2と同じ】	<p>「どのくらい健康に留意しているか（どのくらいへき地医療への関心を持っているか）」を見るための指標です。</p> <p>ここでは、関心の高さを反映した指標として、応急手当講習の受講状況を取り上げています。高等学校や自動車教習所、その他民間企業などでも講習が実施されていますが、関心の高さを把握するため、自発的な受講と考えられる「都道府県、消防、市町村（学校で実施されたものを除く）、日本赤十字社」での講習の受講者を把握することとしました。</p> <p>この指標が高いほど、地域の救急医療への関心が高いことをあらわしていると考えられます。</p>
3	へき地医療支援機構派遣医師数の伸び率	<p>「適切な医療が受けられるのか」を見るための指標です。</p> <p>都道府県では、無医地区または準無医地区においてへき地医療拠点病院を指定しています。へき地医療拠点病院は、へき地医療支援機構の指導・調整の下、へき地診療所等への医師及び看護師等の派遣を行っています。</p> <p>ここでは、「適切な医療が受けられるか」どうかを反映した指標として、へき地医療拠点病院からの派遣医師数の状況について把握しています。</p> <p>へき地に指定された地域がない都道府県やへき地医療拠点病院制度がない都道府県もあります。</p>
4	代診医派遣延べ数の伸び率	<p>「適切な医療が受けられるのか」を見るための指標です。</p> <p>都道府県に設置された「へき地医療支援機構」では、へき地の医師が急病や忌引き、研修その他やむを得ない事情により休診する際に、へき地医療拠点病院から代診医を派遣する制度を行っています。ここでは、「適切な医療が受けられるか」どうかを反映した指標として、へき地医療支援機構派遣医師数の状況について把握します。</p> <p>へき地に指定された地域がない都道府県もあります。</p>
5	へき地診療所の数	<p>「適切な医療が受けられるのか」を見るための指標です。</p> <p>へき地診療所は、前述のとおり近隣に医療機関がない場合に設置される診療所で、へき地の医療を支える役割を担っていると言えます。へき地において適切な医療を受けられるかどうかの指標として、へき地医療診療所の整備状況を把握します。</p> <p>へき地に指定された地域がない都道府県もあります。</p>
6	医療機能情報公開率【がん5と同じ】	<p>「どこに行ったらよいか」を見るための指標です。</p> <p>病気になったときにどの病院を受診したらよいか分かるように、医療機関の情報が誰でもすぐに入手できることが求められます。ここでは、医療機関情報提供の度合いを反映した指標として、都道府県や医師会等の職能団体によってインターネット上で情報が公開されている医療機関の割合を把握します。</p> <p>本指標は高いことが望ましい指標です。</p>
7	へき地からの紹介患者受け入れ数	<p>「切れ目の無い医療を受けられるか」を見るための指標です。</p> <p>へき地医療機関とへき地医療拠点病院の間の連携を評価するため、1年間のへき地医療機関からへき地医療拠点病院への紹介患者数を把握します。</p> <p>へき地に指定された地域がない都道府県やへき地医療拠点病院制度がない都道府県もあり、ます。</p>

(2)「指標」の結果一覧

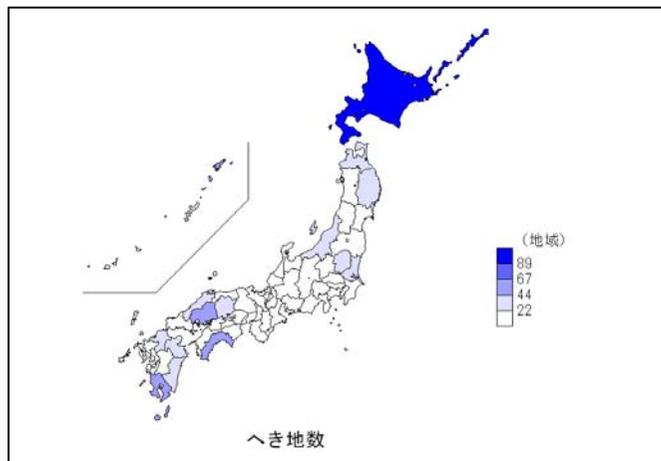
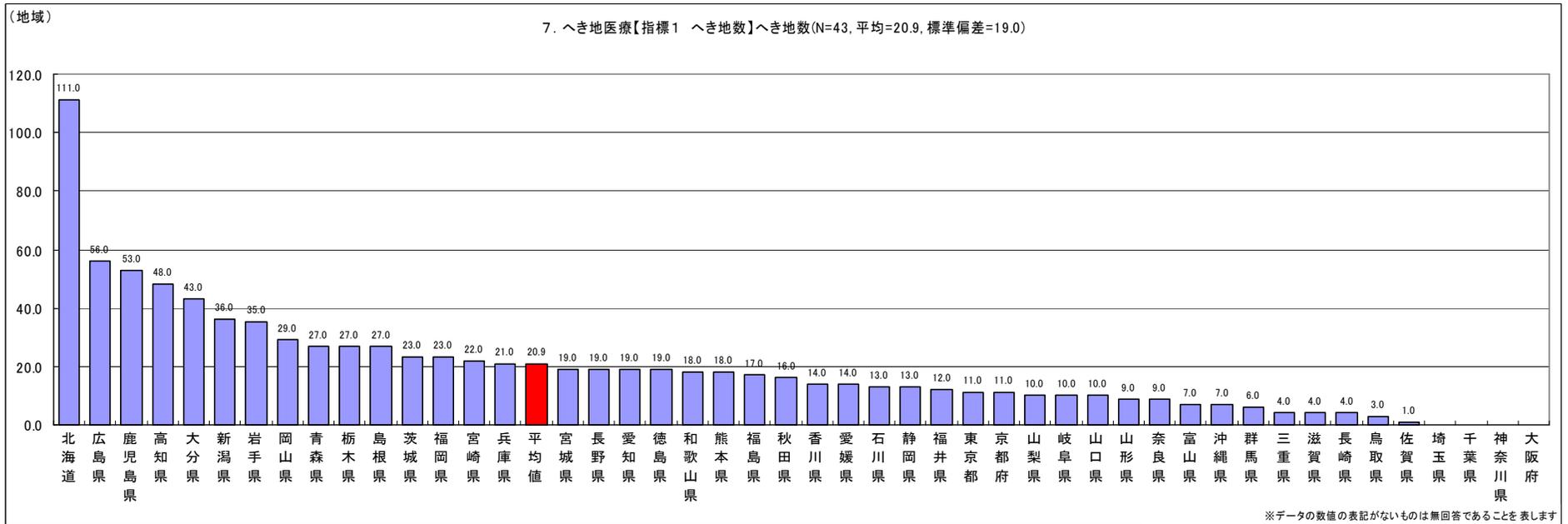
・ へき地医療-1 へき地数



120



- ・ 「どのくらい多いか」を見るための指標として用いています。
- ・ 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府は該当なしです。平均値は 0.9、標準偏差は 0.3 です。
- ・ 地域的な傾向は特に見られません。



- 北海道が最も高く、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府は該当なしです。平均値は 20.9、標準偏差は 19.0 です。
- 地域的な傾向は特に見られません。